

事例：No. 9

低コストで効率的な素材生産を行っている林業事業体の活動事例

都道府県名及び担当部署名： 神奈川県 足柄上地域県政総合センター

担当者名： 林業普及指導員 佐々木 廣海

1. 林業事業体名 王子木材緑化株式会社

2. 林業事業体の概要

- ①年間素材生産量 374m³(H17)、322m³(H18)、850m³(H19見込み)
(うち 間伐の占める割合100%)
- ②生産する主な樹種 スギ・ヒノキ
- ③素材生産に関わる作業員数 3名 ((有)湯山林業)

3. 活動の特徴

平成 19 年度から神奈川県で実施している水源の森林づくり事業による公的支援によって作業路網整備を行い、素材生産事業体育成事業を活用して、列状間伐と高性能林業機械を取り入れた効率的な作業システムの検討を行っている。

4. 高性能林業機械等を活用した作業内容

- ①素材生産用保有機械
スイングヤーダ 1台 (レンタル)、フォワーダ 1台 (レンタル)
- ②主に取り入れている作業システム等
作業路の作設：W=2.5m、L=330m (132m/ha)。
一部に四万十式作業路の手法である、切土を押さえ、路肩への盛土及び根株の活用を試験的に施工。
伐倒：作業路途中の数カ所に作業拠点を設け、伐採幅3.6m、残存幅7.2mに列状間伐。チェーンソーにより伐倒・玉切
集材：スイングヤーダによる集材。
運材：フォワーダにより林道まで運材。
- ③労働生産性：データ収集・分析中
- ④素材生産コスト：データ収集・分析中

5. 素材生産の低コスト化による成果と可能性

昨年まではラジキャリーを使用した架線集材により間伐材の搬出を行っていた。
今年度は、より効率的な作業システムを検討するために、施業地の一部について作業路作設・列状間伐 (チェーンソー伐採および玉切)・スイングヤーダ集材・フォワーダ運材の作業システムによる間伐材の搬出を行った (データ収集・分析中)。
平成 20 年度についても継続して効率的な作業システムの検討を行い、その結果をふまえて、高性能林業機械の本格的な導入を検討するとともに、神奈川県山北町内の社有林に適した作業システムにより素材生産を拡大していく考えである。



列状間伐の実施状況



スイングヤーダによる集材



フォワーダによる運材